

種名	ヒレンジャク Bombycilla japonica 													
	分類	スズメ目レンジャク科												
特徴	ヤドリギの実が好きな尾の先の赤い小太りの鳥。日本へは冬鳥として全国に渡来するが少ない。北半球の亜寒帯で広く繁殖するキレンジャクと比べ、ヒレンジャクの繁殖数はアムール川下流の狭い地域に限られており、個体数の少ない種であるらしい。													
生活	日本では3月～5月頃、平地の集落や市街地付近に群れで現れることが多く、イボタノキ、ネズミモチなどの実やヤナギ類の花などをよく食べる。ヤドリギの実の果肉部分は粘着性があり、これを食べたキレンジャク類の糞も糸を引いたように粘り、それによってヤドリギの種子は他の樹木へ散布される。常に群れで行動する。繁殖生態については不明。													
声	キレンジャクに似た「チリチリチリ」とか「ヒリヒリヒリ」と聞かれる細い声を出し、時々「ヒーヒー」というかか細い声で鳴くこともある。なお、飛び立つ時には「ピーピー」と鳴くという。													
見分け方	尾の先が赤いこと、腹の中央が黄色いこと、翼の模様がキレンジャクと異なる。													
時期	(月)	1	2	3	4	5	—	—	—	—	—	11	12	
その他	全長 (L) 17cm 翼開長 (W) 29cm 産卵期は不明													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														